

『電気之友』誌にみる九州の電気事業（I）

東定, 宣昌
九州大学大学院博士課程

<https://doi.org/10.15017/13553>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 1, pp.63-67, 1973-05-08. エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

『電氣之友』誌にみる九州の電氣事業(Ⅰ)

東 定 宣 昌

『電氣之友』は明治二十四年八月加藤木重教によって創刊され、昭和十七年廃刊となった。明治中期には、学会誌『電氣学会雑誌』(明治二十一年創刊)を除いては電氣に関する唯一の月刊専門誌で、『明治工業史』電氣篇によると「之公刊電氣専門雑誌の先駆にして、我が国電氣界を啓発せし功没すべからず」といわれる。同誌より九州の電氣事業に関する記事を抜粋しよう。

◎鹿児嶋の電灯 鹿児嶋々津邸にては去る明治廿三年より電灯を使用せらるゝことなるが実に完全のものなる由室内白熱灯凡式百五十個室外には六百燭(四十五「ヴォルト」)の弧状灯六個外に同邸統の紡績所に白熱灯八十個を点す発電機は百二十「ヴォルト」百三十「アムペア」の独逸シーメン、ハルスケ、コムパオンド、ダイナモ一台を据付紡績所の蒸汽にて運転す、弧状灯用線は上等の地下線を用る少しも庭前の美観を減することなしと云ふ

(第十号 明治二五年五月 二七八頁)。

◎長崎電灯会社 長崎電灯会社設立一件ハ六月廿八日を以て許可せられたるに付き近日同市外浦上山里村字馬込郷に本会社建築の工事を起す筈なりと

(第十二号 明治二五年七月 三九九頁)。

◎長崎電灯会社 同会社の工事は追々捗取り已に柱下地形、汽鐘据付区域形竣はり今日より煙突建設地形に着手し尚ほ近日に汽鐘水圧試験を行ふ筈なり又た同会社にては今度技師を雇聘することとなり帝國大学工科大學撰科電氣科卒業生柏木実太郎氏招聘の約を結びたりと云ふ

(第十四号 明治二五年九月 五一二頁)。

◎岡田亀之助氏 は是迄横浜居留地五十五番館コッキング商会の電灯を担当されたるが此度熊本電灯会社の技師として聘せられたり

(第十八号 明治二六年一月 四五頁)。

◎長崎の電灯 去る十一月より電灯の点火を始めたるよし

(第十九号 明治二六年二月 九七頁)。

◎熊本電灯会社の配当 過日株主総会を開き昨下半年の収支勘定を報告し一株に付き三十銭即ち年六朱の割にて利益配当を為したるよし

(第十九号 明治二六年二月 九八頁)。

◎大分電氣鉄道 大分県大分町と浜脇町とに架設せんとする電氣鉄

道の設計ハ発電に水力を利用する見込なりと

(第二四号 明治二六年七月 三三四頁)。

◎筑豊鉄道会社の電灯 同会社よりアーク灯点火を東京電灯会社へ依頼したる為め同社技師中原岩三郎氏は若松港へ出張工事中なりと

(第三十号 明治二七年一月 二五一六頁)。

◎大分県の電気鉄道 同県大分町より速見郡別府村迄七哩の間に電気鉄道を布設せんとて昨冬以来奔走中の処此程愈々其踏査も了り設計書も出来せしを以て資本金を十万円と定め近日中其筋へ出願の手續に及ぶとの事なり

(第三五号 明治二七年六月 二三一頁)。

◎熊本電灯水力を利用せんとす 同会社にては水力を利用せんとの議起り白川上流なる須鹿流瀑の高低及び水力の調査方を始めたる由同水力は一萬馬力位にして之か実行の暁に至らば工場を合志郡瀬田村に置き夫れより熊本の本社に幹線を通し一般に電気を配送する見込なりと云ふ

(第三六号 明治二七年七月 二八三―四頁)。

◎石炭の騰貴 七月九日鉄道局にて北海、豊筑及肥前炭の内塊炭三百萬斤を入札にて買入たる相場は横浜渡にて一萬斤五十三円五十七錢乃至五十六円五十四錢にて今日は四十円以下の品なし……石炭騰貴!

(第三六号 明治二七年七月 二八六頁)。

◎大分県の電気鉄道 予て大分県の平塚恰外数氏より出願中の大分町より同県川府港に達する六哩余電気鉄道敷設の事は此程愈々許可されしよし(十月二十日 日本)

(第三九号 明治二七年十月 四〇二頁)。

◎三池炭山の電気 三池礦山に応用すへき電灯用諸機械は先般品川電灯会社に於て悉皆完成したるに付き目下据付の準備中なりと

(第三九号 明治二七年十月 四〇三頁)。

◎石炭の価 前報後元積風帆船大の浦丸にて筑前炭六十萬斤の入津ありしが約束済の趣にて早晩蔵入に着手する由去れば北海炭入荷皆無にして九州炭も船先の聞へありと雖昨今日和悪敷何日入津すべき哉真に定め難く一体に買入気を萌したるが過般横浜へ外国船にて筑前炭五六十萬斤の入荷ありしを以て当地より回漕し来れる故一時の欠乏を補ひつゝあるも最早残荷も少数となれりと言へば今後入船の都合により暴騰の程も計り難く底意至て手堅く見ゆるも蔵前相場は持合居れり即蔵前一萬斤に付

○唐津炭 五十円 ○筑前炭中品 四十七八円

○白水炭 三十八九円 ○三池粉炭 四十三四円

○梶内粉炭 三十七円 (十月十七日 中外商業新報)

(第三九号 明治二七年十月 四〇三頁)。

◎長崎通信(十一月二十五日発)

当地に於ても追々電灯の効能を知り日々電灯の増加を見るは御同様喜ばしき事に御坐候現今長崎電灯会社の機械は米國製トムソンハウストン九灯用孤光灯発電機壹基、同白熱灯六百五十灯用発電機壹基

なるが已に売り尽し新機械の到着を待ち居る有様なり、只今の処終夜灯なく皆十二時限り消灯す、塊炭一万斤十四五円位にて至極廉価なれども用水欠乏の為め時々石炭代に劣らぬ水料を支払ことあり、不日千灯用交流発電機到着の筈なり

(第四一号 明治二七年十二月 四七四頁)。

◎熊本通信(十二月十四日発) 黒沢寛治

当地電灯会社目下使用の発電機はエヂソン式三百二十灯用二個。ブラッシュ交番式六百灯用発電機一個合計三個にて取付灯数は当師団及市中を合せ一千五百余個に有之候

広島兵営出火以来当師団にて一切石油灯を禁せられ候由にて続々電灯増設の義申来り候得共何分にも両発電機共毎夜ローバー、ロード致居已を得ず断居候併し近々千灯用老個更に新設の筈に御座候当地紡績会社も当社新設発電機据付済次第三百灯許点灯の筈に御座候

(中略)

当地方にて既設の電灯会社は当社の外長崎にて其他福岡、鹿児島、山鹿、小倉にも新設の模様有之福岡の如きは已に許可相成候由に候右は荒ましに候詳報は次回に譲る可なり

(第四一号 明治二七年十二月 四七四―五頁)。

◎筑前福岡通信(二月八日電友報)

福岡電灯は既に昨年末会社設立願文は済みたれとも種々事情の爲め手間取る模様

三池電灯 発電機は東京の芝浦製作所製高圧二千「ボルト」三拾「キロワット」六百灯用の見込にて東京品川電灯会社のホブキンソン

形とも云ふべきか汽機は八拾馬力はも亦芝浦製に係る点灯は昨年十一月八日より始め本年一月末迄に大浦、宮浦、勝立、七浦、浜等の各炭坑器械場、貯炭場、三池集治監へ点火し引続き坑内の設計に取り掛り今一台発電機を据付くる筈なり而して同処は建築上の都合より点灯營業の許可を得たれば大牟田町も需用者さへあれば点火すべし交番式アーク灯も右の発電機にて四五個点火致居候

(第四三号 明治二八年二月 五八一―九頁)。

◎三池通信(四月十日発) 在三池 村川豊三郎

◎久留米紡績会社電灯 同社は福岡県久留米市の西隅に在りて世にも聞ゆる「久留米かすり」は同社の製造にて在来五千錘なりしが此度一万の錘数の工場を増設せり随つて電灯も亦二倍に増加す此増設工事は凡て東京品川電灯会社の請負を以て昨年十一月工事に着手本年一月中旬落成在来の電灯工事は三四年前東京某電機工場の請負にて取付たる儘其後手入せざる故此度火災保険を付けるに就ては電灯線布設規則に従ひ多少改修を要せり

凡て紡績工場のスカッチャ、ミユウル等の器械は摩擦に依り熱を生じ之れが為め棉花等を燃焼し火災を招くこと在れば電灯線布設は殊更十分注意せざる可からず

(後略)

(第四六号 明治二八年五月 一九七―九頁)。

◎鹿児島水力電気 鹿児島市の那答院重義氏は同市内稻荷川の上流滝の上に水力発電所を建設し其電氣力を以て専ら同県下諸鉱山より産出する鉱物を製煉し其余分を以て市内に電灯を点せんとこの計画中なり又嶋津家に於ては川内川の上流曾木の滝近傍に一大水力発電所

を建設し其電気力を利用して山ヶ野鉦山等の鉦業を盛んにせんとの議ありと云ふ

(第五十号 明治二八年九月 三八七頁)。

○門司電灯会社 福岡県門司港に電灯会社を設立することは同地有志者の宿望なりしも日清戦争開戦と共に一時中止し居たるが中村為弘、津川幾蔵、石田平吉諸氏の発企にて愈よ設立することに決し資本金は五万円なりといふ

(第五二号 明治二八年十一月 四七六頁)。

○長崎電灯会社新機械 同会社にては従来六百五十灯用発電機一台なりしが更に一千灯の発電機を増置し上市の南隅高野平に家屋新築中なりしが此程全く落成し不日旧家屋より移転し頃日数回試験をなせしに十分の好成績を得たりと云ふ

(第五六号 明治二九年三月 一四一頁)。

○博多電灯会社創業総会 三月廿六日博多東中洲福村楼に開会し出席株主六十二名、磯野七平氏を座長に推挙して定款其他数件を議決し重役の撰挙を行ひしに左の諸氏当撰したり

取締役 磯野七平 太田清蔵 中尾卯兵衛 小河久四郎

是松右三郎

監査役 立石善平 同吉田又吉

(第五七号 明治二九年四月 一八四頁)。

○小倉電灯会社の設立認可 福岡県小倉の同会社は此程農商務大臣の設立認可を得たれば不日株式の募集発電所の建設等に着手するよ

し

(第五七号 明治二九年四月 一八四頁)。

○鹿児島電灯会社設立の願出 那答院氏の分と奥氏等の分と合併して一会社と為すの談判纏り三月十三日更めて願書を差出したりと云ふ

(第五七号 明治二九年四月 一八五頁)。

○小倉電気鉄道 守永勝助、守永久吉諸氏外十七名の発起にて小倉電気鉄道敷設の計画あり此程発起認可を出願せしが同鉄道は小倉を起点とし東紫村足立村を経て同県企救郡北方に至る延長八哩間に敷設するものにして資本金は二十五万円なりといふ

(第六十号 明治二九年七月 三三二頁)。

○熊本水力電気 熊本県熊本市より東北八里の間に在る二瀑布の水勢を利用して電気を起し一の株式会社を設立するの計画あり嘉悦氏房、竹崎政長、青木正輝、高橋元義、高田露、高橋辰熊の六氏上京して創立事務所を京橋丸屋町に設けたり

(第六十号 明治二九年七月 三三四頁)。

○豊州電気鉄道創業総会 大分県大分町より同県別府町に至る凡七哩の豊州電気鉄道会社は八月五日別府町にて創業総会を開き定款を議決し役員を選挙を行ひたるに左の諸氏当選せり

取締役 朝倉親為 菊地行造 菊地清治 菊地五平 都築温太郎

支配人 石井 予

監査役 浜崎丑治 安部 丈 荒金竹治

(第六一号 明治二十九年八月 三七八頁)。

編集後記

○門司電灯会社設立の計画 齊藤美知彦氏等の発起にて門司電灯株式会社を設立するの計画あり其設計を工学士岩垂邦彦氏に委託する
善なりと

(第六五号 明治二十九年十二月 五五五頁)。

付、右に抜萃した雑誌『電気之友』は国立国会図書館所蔵のものである。

○ ささやかながら第一号を編集しました。本号は資料の紹介が多かったようですが、第二号からは文献目録、史料目録を豊富に入りたいと思います。

○ やがて『筑豊石炭礦業史年表』も刊行されることと思えます。本号は筑豊炭田に関するものは少なかったのですが、第二号からは愈々年表の補正にとりかかりたいと思えます。

○ 目下、論文集『近代九州におけるエネルギー産業と交通の展開』を編集中です。今年度内には刊行出来ると思います。

○ 本誌に関する御連絡は左記におねがい致します。

814 福岡市東区箱崎 九州大学経済学部日本経済史研究室
秀村 選三

千葉県習志野市泉町一―二―一

日本大学生産工学部社会系研究室

田中 直樹

『エネルギー史研究ノート』第一号

一九七三年五月五日印刷

一九七三年五月八日発行

編集並発行所

九州大学経済学部日本経済史研究室内

エネルギー史研究会